

130kg用フルハーネス 取扱説明書

種類：フルハーネス型
使用可能質量：130kg

要保存

厚生労働省「墜落制止用器具の規格」適合品

■この度は当社製フルハーネスをお買い上げ頂き、お礼申し上げます。

この製品を使用する前にこの取扱説明書を最後まで読んで頂き、充分ご理解の上使用してください。

【この取扱説明書は読んだあと大切に保管してください。】

■この製品は労働安全衛生法第42条の規定に基づく「墜落制止用器具の規格」に合わせて製造したものです。

■厚生労働省基発0622第2号（平成30年6月22日）「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に従い適切に、安全に使用してください。

■疑問や不明な点がございましたら、裏面の当社消費者相談室にご連絡ください。

■この取扱説明書を紛失した場合も同室までご請求ください。

◆用途 この製品は建設現場、工場等の高所作業で作業者の墜落を制止する為に使用するものです。

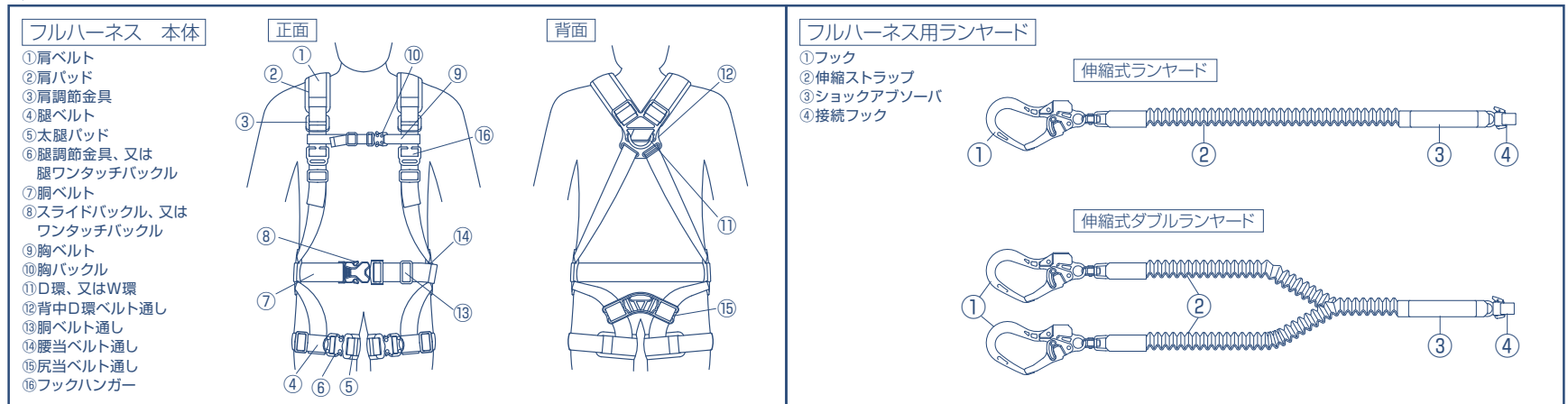
※墜落制止用器具の選定について

適切な墜落制止用器具の選択には、フルハーネス型又は胴ベルト型の選択のほか、フック等の取付設備の高さに応じたショックアブソーバのタイプ、それに伴うランヤードの長さが含まれ、事業者がショックアブソーバの最大の自由落下距離や使用可能な最大質量等を確認の上、作業内容、作業箇所の高さ及び作業者の体重等に応じて適切な墜落制止用器具を選択する必要があります。

墜落制止用器具の種類、ショックアブソーバの種別、使用可能な質量、自由落下距離、落下距離については製品のショックアブソーバに記載しています。

また、墜落制止用器具を装着する前にこの取扱説明書を確認し、安全上必要な部品が揃っているか確認してください。

◆フルハーネス 各部名称（形状は一例を示します。）



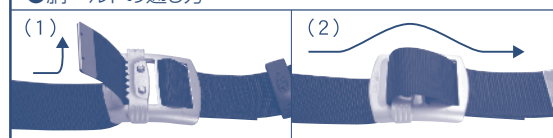
装着方法



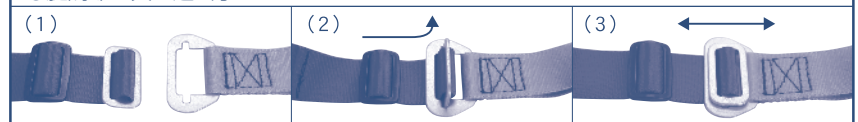
■ベルトの通し方と装着方法

各ベルトの通し方を間違えるとバックルの機能を失いますので、充分注意してください。

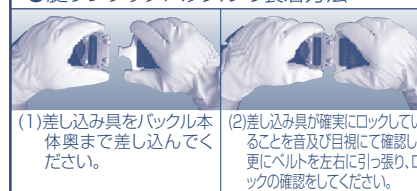
●胴ベルトの通し方



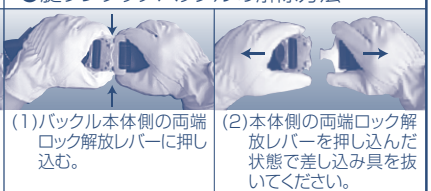
●腿調節金具の通し方



●腿ワンタッチバックルの装着方法

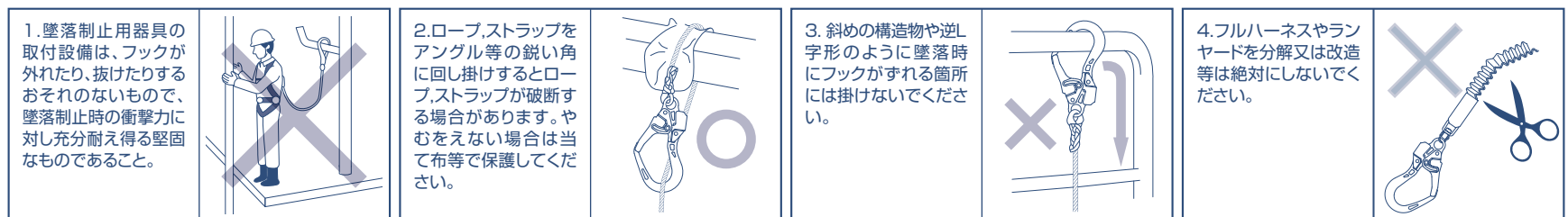


●腿ワンタッチバックルの解除方法



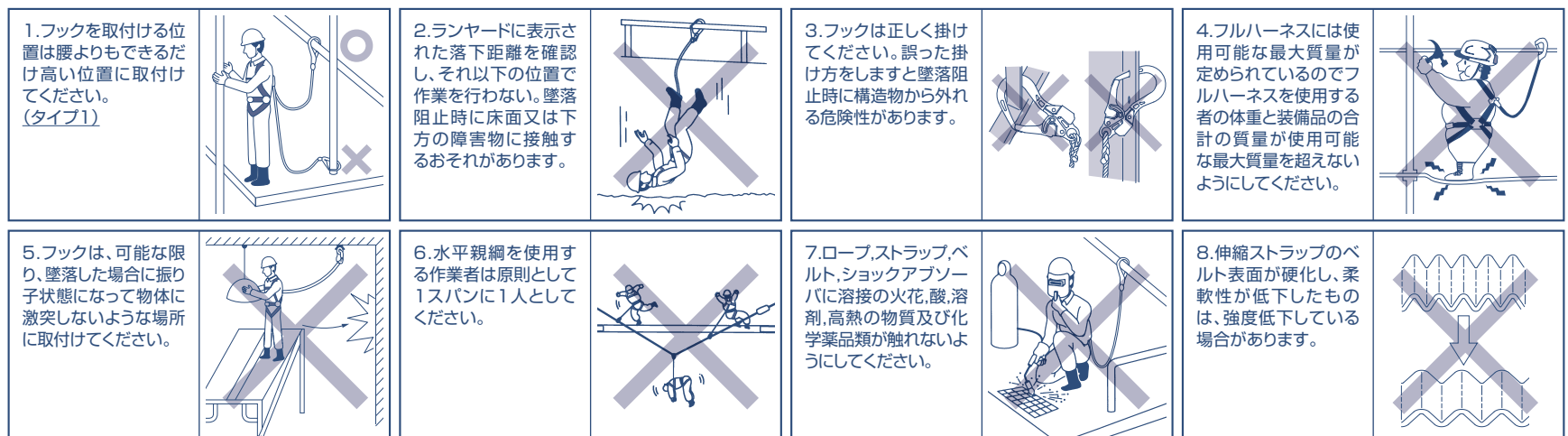
⚠ 危険

誤った使い方をしますとフルハーネスが損傷したり落下事故のおそれがあり大変危険です。
絶対に下記の項目を守って使用してください。



⚠ 警告

誤った使い方をしますとフルハーネスが損傷したり落下事故のおそれがあります。
絶対に下記の項目を守って使用してください。



9. このフルハーネスは墜落時の災害を防止するものです。それ以外の用途には絶対に使用しないでください。(車の牽引、重量物のつり上げ等)
10. 墜落制止時にフルハーネスがずり上がり、安全な姿勢が保持できなくなることはないように、緩みなく確実に装着してください。
11. バックルは正しく使用し、ベルトの端はベルト通しに確実に通すこと。
12. 一度でも大きな衝撃を受けたフルハーネスやランヤードは、外観に変化がなくても再度使用しないでください。
13. ロープ、ストラップ、ベルト、ショックアブソーバは高温に弱い性質がありますので、50℃以上の環境では使用しないでください。
14. 製造元以外でストラップ、ベルト、ショックアブソーバの縫製やロープのさつま加工は絶対にしないでください。
15. ショックアブソーバのカバーが破損したものは使用しないでください。

注意

安全にお使いいただくためにお守りください。

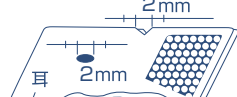
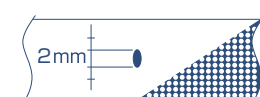
1. このフルハーネスは1本つり専用です。U字つり作業には使用しないでください。
2. フルハーネスやランヤードを投げたり、引きずったりしないでください。故障の原因になります。
3. フルハーネス装着後ランヤードを背中への環に繋げるときは別の人に確実に取付けてもらう。
4. ロープ、ストラップが雨等で濡れると電気をよく通します。感電には充分注意してください。
5. バックル本体内部が凍結により作業に影響するおそれがある場合は使用しないでください。
6. バックル本体内部に異物が混入すると差し込み具が挿入できなくなります。バックル本体内部には差し込み具以外のものを差し込んだり異物が混入しないようにしてください。
◎バックルを確実に挿入し、外れないか確認してからご使用ください。
7. フルハーネスとランヤードの組み合わせは、同一メーカーのものを組み合わせてご使用ください。


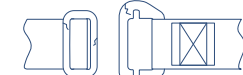
■保守・保管

1. ロープ、ストラップ、ベルト、ショックアブソーバーは日光、熱、雨、薬品等の影響をうけると性能の低下や伸縮する場合があるので、それらの影響のない場所に保管してください。
尚、ストラップは必ず収納して保管してください。
2. 雨等でフックやバックル部が濡れた場合は乾いた布等で拭き取ってください。
3. バックル、フックの可動部分やスプリング等に砂や土が付着すると機能が低下し錆付きの原因になりますので、時々手入れをし注油してください。
4. ロープ、ストラップ、ベルト、ショックアブソーバーが濡れたり汚れた場合は、ぬるま湯で洗い陰干しをしてください。ただし、50℃以上になる場所や熱風等での乾燥は絶対にしないでください。
5. 製品の上に角張ったものや、重いものは置かないでください。

■点検・廃棄

フレハーネスは使用前及び定期的に点検して頂き、下記の廃棄基準に達すれば新しいものと取替えてください。

点検部分	点検項目・廃棄基準	
トレイ	摩耗, 擦り切れ, 切り傷, 焼損, 溶解	
	両耳	幅の中
		
	a. 刃物傷, 裂け傷, 引っかけ傷, 摩耗, 先止め金具の脱落のあるもの。 b. 薬品が付着し、変色しているもの。 c. 縫糸に摩耗, 糸切れ, ほつれのあるもの。	

点検部分	点検項目・廃棄基準	
金具類 バックル D環	変形	傷・亀裂
		
	a. 変形しているもの b. 1mm以上の傷, 亀裂のあるもの。 c. リベットが損傷したり緩んでいるもの。 d. 作動が悪いもの。完全に開閉しないもの。 e. パネが折損, 脱落しているもの。 f. 全体に錆又は著しい腐食が発生しているもの。 g. バックルの装着又は解除ができないもの。	

◆交換のめやす（耐用期間）

使い方によって異なりますが、交換の目安としてはランヤードで使用開始より2年、ランヤード以外のものについては3年ぐらいを目途にしてください。屋外で使用する機会が多い場合は前記期間より短くしてください。(紫外線等により劣化します。)

ただし、耐用期間内であっても点検項目にしたがって点検を実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで新品と取替えてください。使用を開始した年月を必ずご記入ください。

また、ベルト、ランヤード等商品を取替えた時はその取替え年月も必ずご記入ください。

(背中に取り付けているラベル)

使用開始年月

使用・取替えなどの開始年月を必ずご記入ください。

開始年月	
取替年月	
氏 名	

■墜落制止用器具に関する用語について

◆自由落下距離

自由落下距離とは作業者がフルハーネス又は胴ベルトを着用する場合において、フルハーネス又は胴ベルトにランヤードを接続する部分の高さからフックの取付設備等の高さを減じたものにランヤードの長さを加えたものを言う。(図のA)

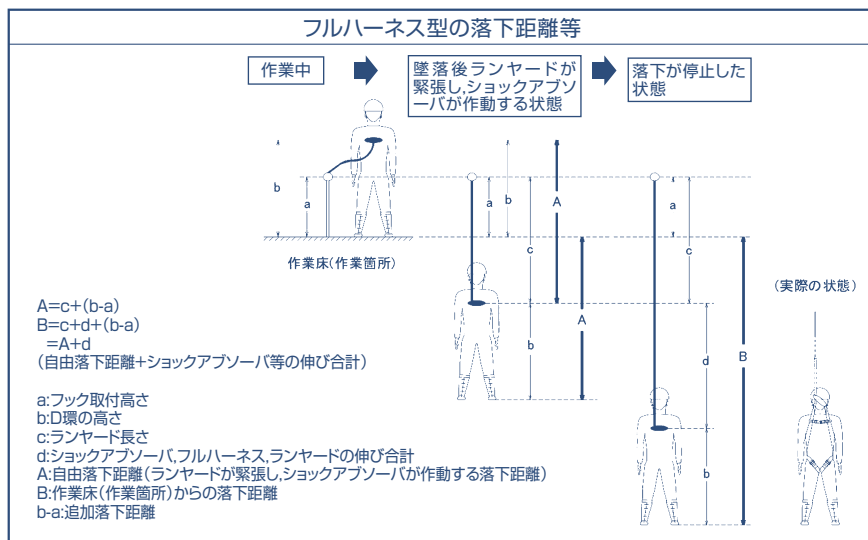
◆落下距離

落下距離とは作業者の墜落を制止するときに生じるランヤードの伸び、フルハーネス又は胴ベルトの伸び等に自由落下距離を加えたもの。(図のB)

また、フックをかける取付設備と、ランヤードを接続する環との高さの差を追加落下距離という。

■特別教育について

高さ2m以上の箇所において、作業床を設けることが困難な場合で、フルハーネス型を使用して作業を行う労働者は特別教育(学科4.5時間、実技1.5時間)を受講しなければなりません。



■厚生労働省「墜落制止用器具の規格」(タイプ1)

性能	規格値	
フルハーネスの強さ	順方向	15.0kN以上
	逆方向	10.0kN以上
胴ベルトの強さ	15.0kN以上	
ロープなどの強さ	15.0kN以上	
フックの強さ	11.5kN以上	
ショックアブソーバの強さ	15.0kN以上	
巻取器の強さ	11.5kN以上	
巻取器ロック装置の強さ	6.0kN以上	
フルハーネスの 耐衝撃性及び関連性能	脚部から先に、及び頭部から先にそれぞれ 落下させたとき、トルソーを保持する事。	
ショックアブソーバの 耐衝撃性及び関連性能	衝撃荷重	4.0kN以下
	ショックアブソーバの伸び	1.2m以下

フルハーネスの耐衝撃性及び関連性能

The diagram illustrates two methods of testing a full-body harness. The top row shows the harness suspended from a horizontal bar with a hook, labeled '300mm以下' (300mm or less). The left side is labeled 'トルソー' (Torso) and 'テストランヤード' (Test lanyard). The right side is labeled 'トルソー' (Torso) and 'テストランヤード' (Test lanyard). The bottom row shows the harness from a different perspective, labeled '脚部から先' (From the feet) and '頭部から先' (From the head).

ショックアブソーバの耐衝撃性及び関連性能

The diagram illustrates the test setup for a shock absorber, showing three states of the apparatus:

- a) つり下げ状況の重すい (Suspended state with weight): The shock absorber is suspended vertically. A load cell (ロードセル) is at the top, followed by the shock absorber (ショックアブソーバ), a test stand (テストスタンド), and a weight (重すい). The distance from the weight to the test stand is labeled H_5 .
- b) 落下前の位置に上げる (Raising to the position before dropping): The weight is raised to a height H_f above the test stand. A dropping device (落下装置) is used to release the weight.
- c) 落下後のつり下げ (Suspended after dropping): The weight is released and falls, impacting the shock absorber. The distance from the test stand to the impact point is labeled H_0 .

試験装置の床面 (Test apparatus floor surface) is indicated at the bottom.

挑み支度
TOYO SAFETY.
www.toyo-safety.co.jp

日本安全帯研究会会員

株式会社トーヨーセーフティ
〒673-0443 兵庫県三木市別所町巴21-1
消費者相談室：0794-83-0155